

# 琉球大学学術リポジトリ

もっと普及員について知ろう ー相互理解と普及事業促進のためにー

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-07-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 古謝, 瑞幸, Kojia, Zuiko メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/21116">http://hdl.handle.net/20.500.12000/21116</a>

# もつと普及員について知ろう

## ＝ 相互理解と普及事業促進のために ＝

今頃農村で「あなたは普及員を知っていますか」とたずねようものなら、すっかり愚問扱いにされるであろう。それ程に普及員は農家と密接に結びついているからである。普及員という職名では知らなくても、さとうきびの株出しについて教えてもらった先生、あるいは〇〇さんといえば、誰でも真先に農業改良普及員を思い出した。また、正月料理のイナムドチの作り方を教えてもらった先生といえば、大体の主婦がすぐ生活改善普及員を思い出すであろう。

しかし、普及員を知っている人はあまたいるけれども、普及員について知っている人は果してどの位いるだろうか。あなたはかつてあなたと普及員との関係について考えてみた事がありますか。

普及員こそはあなたがりっぱな社会人としての教養を身につけ、農業の生産を向上し、幸福な家庭を築くためのあなたの相談相手である。もし、今日、このような普及員の存在を知らない人がいるとすれば、それは大きな損をしている不幸な人といわざるをえない。

普及員について知ることは相互の連けいを密にし、普及事業の効果の増強に通ずる。

普及員について知るには普及事業そのものについて知るとなお効果的であるので、そこからスタートしたい。再認識の積りで読んで下されば幸いである。

### ※ 普及事業とは何か

#### (目的と特徴)

戦前の日本の農業指導は金力的指導とよばれ、補助金を有力な手段として、政府の思うように農産物を生産せしめた。また、他方、官庁的指導ともいわれ、生産者である農家の所得や生活の問題は重視されず、農産物の改良や物量の生産に重点がおかれた。

しかし、戦後のそれは本土も沖縄もことごとく改廃さ

れ、普及事業という教育的制度が打立てられた。

普及事業は農業および生活についての実際的な知識、技術を農家に滲透させて、農業を能率化し農業生産を増大させ、農家の生活を向上させると共に公共の福祉を増進することを目的とする。

それは従来(戦前)の農家指導とは違って次のような特徴をもっている。

#### A 普及事業は試験研究機関と密接に結びついて行なわれる

この事業の中心は農家の相談相手となる普及員である。普及員は試験研究機関と農家を結ぶ仲介役である。即ち試験の成果を農家に伝える一方、逆に農家の問題をとりえて同機関に報告して解決を求める役である。

#### B 普及事業は生活改善を取上げる

この事業は農業のことばかりでなく、農家はもちろん今日では都市の生活改善まで取上げて活動する。

#### C 普及事業は青少年のクラブ活動を促進する

この事業は次代の農村社会のリーダーを育成するために、進取の気象に富んだ青少年に働きかけて、自主的なクラブ活動を促進する。4Hクラブはその代表的な組織である。

#### D 普及事業は自主的農家を育成する

普及員は物質や補助金は扱わず、専ら教育的手段によって技術指導に従事する。そして農業および生活改良の主動性を農家側にもたせ、普及事業はそれに奉仕するという立場をとる。

#### E 普及事業では農家の実情にそった総合指導をする

普及事業では技術指導を行うといっても、狭い意味の技術ではない。今日の普及員は特技化の傾向にあるが、それでも広く農家の実情に通じた総合指導のできる技術者であることを目指している。

## F 普及事業では各種の普及方法を用いる

農家が解り易く納得できるように種々の手段が用いられる。圃場や家庭を訪問して現場指導を行ない、新しい技術を実地に示すために農家の展示圃を利用する。クラブを組織して講習会、実績発表会などを催す。また、印刷物、ラジオ、テレビ、映画なども情報活動のために広く利用する。

## G 普及事業は万事押しつけない

普及事業は官僚的におこないないように、農家の意向を広く反映させるようになってきている。特に普及計画については農家の意向と実情に基いて実施されるように努力が払われる。農業委員会、普及諮問委員会、普及事業連絡協議会などはそのために設置され、普及事業の推進母体の役割を演じる。

## ※ 普及員の種類と役割

普及員は普及所に駐在し、常に農家と接触してその相談相手となり、知識、技術の普及指導にあたるもので、普及事業の中心をなす技術員である。普及員は補助金、供出、検査、取締などの業務には関与しないで、専ら教育者としての立場から教育活動に従事する。市町村や組合、農業系会社などの技術員とは全く違う。

普及員はサービス分野により大別して農業改良普及員、生活改善普及員、4H普及員の三つからなっている。

### 1) 農業改良普及員

農業改良普及員といっても、今日では国により、地方により、専門事項別に設置されている。例えば一般作物を担当する普及員は俗に農改普及員とよばれ最も多く配置されている。園芸関係の普及員は特技化の傾向にあり沖縄のパン特技普及員はその一例である。更に畜産普及員がある。沖縄には畜産普及員はまだ設けられていない。これは稀な例である。沖縄の糖業も限度に達し、期待されるのは畜産のみと、松岡主席を初め、多くの関係者の焦点となっている。斯かる見地からもその指導体制の改革は急を要する課題であろう。外国では単なる畜産普及員に留まらず、細分科の域に達している。

試験研究機関でつくり出された新しい技術は専門技術員や研究者によって調整され、普及に適する状態に改められて普及員に伝達される。普及員はそれを農家の実情に応じて指導をする。例えば琉球農業試験場でサトウキビ N: Co. 310 の合理的な植付け方法は畦間125cm、株間40cmという結果が出た。それは専門技術員から普及員に伝達される。普及員は農研クラブ代表、あるいは部落の生産者を集めて講習会を開く。それが一つの技術指導の過程である。

こんどは逆の方向の橋渡しとしての普及員。普及活動の途上で発見された農家の問題の中、試験研究を要すると思われるものは専門技術員を通じて試験研究機関に持込まれる。問題が解決されると前述のルートで農家に伝達される。

### 2) 生活改善普及員

試験研究機関でつくられた家庭生活に関する新しい知識と技術を農家の主婦に伝達するのが生活改善普及員である。従来、農事指導と同時に主として農家対象に推進されてきたこの事業は、今日では都市の家庭にも奉仕するようになってきた。家庭生活に関するあらゆる問題と取組むので、衣、食、住、家庭管理、育児、衛生、レクリエーションなど広い分野の活動をする。

普及員はこれらの知識、技術の伝達場として部落、あるいは隣組み間に婦人をしてグループやクラブを組織せしめる。俗に〇〇生改グループと呼ばれ、全沖縄の普及組織の中で最も大きく、かつ活発な機能集団として異彩を放っている。

衣に関しては働き易い作業衣が多くの婦人に親しまれ、また退蔵衣料の更生利用と合理的な衣生活の設計の普及活動も盛んである。

食に関しても大きな改善がなされた。不合理極まる農家の食生活からバランスのとれた食事へと根気強い努力が払われ、今もなお続けられている。空地はあっても野菜は買って食べる事しか知らなかった主婦たちが進んで家庭菜園を作るようになってきた。これは生改と農改普及員の協同指導により全統的に広がり大きな実績を上げている。

住に関しては台風向け住宅オンリーから脱皮して住みよ

い住宅に改善されるようになってきた。通風、採光、間取り、装飾と主婦の工夫や意見が大きな役割を果たしている。中でも台所の改善は大きな実績を残し、生改普及事業はそのためにあるかのような時代もあった。

### 3) 4 H 普及員

そういう普及員もいるかなとあなたは頭をかしげるだろう。それもそのはず、沖縄の普及事業にはそれが設けられていないから。4 Hは普及事業の三大サービス分野の一つで、世界の多くの国々が専任の4 H普及員を持っている。沖縄の普及事業も青少年教育という名目で4 Hクラブの育成を図っているが、それは農改および生改普及員たちの分担業務として運営されている。十分な陣容とまではいなくても、専任を設置することができれば、双方に大きな成果が期待できよう。下火になった郷土の4 H再建のためにも痛感する問題である。4 Hこそは次代の農村リーダーを育成する重要な組織である。初期の普及事業は農村の経済充実のために行なわれ、4 H活動は生産を目的とした。今日ではそれは寧ろ第二義的で市民育成、リーダーシップ、職業訓練に重点がおかれている。4 H普及員はその目標達成のための尊い役割を演ずる。

## ※ 普及事業はあなたのためにある

従来（戦前）の農事指導は殆んどが国家の必要を満たすためのものであっても、農家のためのものではなかったことは前項でも述べた通りである。

例えば普及活動を能率的にするために、普及員は声からして農研クラブ、生改クラブ、4 Hクラブを組織する（厳密には組織づくりを助ける）。

ところがそのクラブはあなたも普及員のためにあるかのような間違った考えをもっている人がいるがこれは驚きである。

どのクラブ作りも他から言われてやるのではなく、受益者のあなたから積極的にもり上げる熱意を普及員は期待する。普及員は根本的に助言者である。

普及事業が自主的人間を育成することを目的とし、農業および生活改良の主動性を農家側にもたせ、問題解決に奉仕するという理念はそこにある。

## ※ 普及員はあなたの指導力の養成者

従来、時代おくれの農耕しか知らなかった農村の男性と、絶えず家事にしばられて井戸端会議の域を脱しなかった農村婦人のリーダーシップ（指導力）の向上はめざましいものがある。それは普及員の大きな業績の一つであろう。今日、これらの人々が下はグループ単位から上は全国的な中央会議の壇上に立って堂々とデモンストレーション（演示）や体験発表を演ずるのは、もはや珍しいことではなくなった。農研、生改、4 Hの各クラブメンバーになることによって民主的ルールを身につけ、やがてはクラブのリーダーとして活躍する。その機会は全クラブ員に等しく与えられる。ミカンの接木法やパイナップルのつくり方を普及員から学びとり、それをデモンストレーションによってクラブ員に伝達する。それはやがて部落中の話題となってみんなに波及する。そのような目に見えない個々の指導力はクラブ活動に参加することによってもっとも効果的に育成されていく。普及教育の成果は芽生える農村の人材養成の原動力である。

## ※ 普及員は苦勞の多い教育者

普及員は教育者という点においては学校の先生と全く同じである。ところが普及員は千差万別という生徒（農家）を対象とするのでは多事多難の教育活動が伴っている。例えば、学校の先生は自分で指導計画を立て、特定の時間と教室をもち、条件の揃った生徒を対象に教育活動を行う。普及員の場合はそのすべてが逆の条件にある普及計画については農家の意向を反映せしめるためにその決定権は農家側にもたせる。経済的にも考え方も種々異った多くの農家の意見をまとめて、一つの普及計画を仕上げるのは決して容易な仕事ではない。みんなの要

望を取上げると普及事業という船は方向を失するばかりか、沈没してうでであろう。そこで、みんなに等しく健全な普及計画を立てさせるといふ過程は助言者の普及員のみが知る苦勞である。

次に普及活動の場所と時間は必ずしも一定しない。あなたの農場、畜舎、庭先、台所、公民館などすべてが教室である。これは実際の現場指導、誰でも気軽に出席できるという点からは、設備、交通という要素を除くとそれ程問題ではなく、寧ろ効果的である。

普及活動の中、もっとも普及員のなやみのタネは会合の時間の設定であろう。普通、農家は土曜、日曜に関係なく朝から晩まで野良仕事で忙しい。みんなに都合のいい時間というのはなかなか見出せない。せっかく日時を決定しても、参加人員が少なく流会したり、あるいは遅刻者が多くて会合が定刻より遅れて始まることはよくあることである。それは普及員泣かせである。しかし、普及教育によって農村の人々の時間に対する観念がかなり改善されたことは否めない事実である。生活改善活動の場合はグループ員の努力によってなんとか昼間の時間を設けてうまくいっているようであるが、男性を対象とする農業改良活動は時間に関する限り多難である。これはひとり沖繩のみならず、他の国々も共通である。それで、特に昼間を必要とする場合以外は、殆んど晩の会合となっている。また、農家の要請によっては土曜、日曜の屋晩でも出勤せざるをえない。その例は現実としていくらでもあろう。普及員も家へ帰れば子供の親、一家の主であり、内外になすべき事は種々あることは当然である。それらをかえりみず、晩、土曜、日曜も関係なくひたすら農民教育に精魂を打込んでいることに対しては有難いだけではすまされないような気がする。筆者はあるアメリカの普及員が「僕の職業は妻君から余り有難く

思われていないよ」と冗談めいて語っていたのを思い出す。さもありませんと全く同情した。

その次に普及教育の対象となる生徒（農家）は条件が千差万別であるということ。希望者は誰でも加入できるので、性、年齢、教育程度、経済力、興味、社会的地位、宗教、その他個人により種々と異っている。このような人々を一ヶ所に集めてみんなが納得するように指導するという事は普通の人には想像もできないだろう。普及事業はこのように条件の異った多くの人々を生徒として教育活動を展開するので難点が多い。それに普及教育は現時点（実態）を出発点として実施されるのでなおさらである。一人一人の必要を満たしてやるには長い時間かかる。普及事業は長期のそして融通性の教育過程といわれるゆえんはそこにもある。牧師についてはよく知らないが、普及員はよく牧師にたとえられる。それは普及員は農家に関する限りどんなことでも相談相手になるという仕事の性質からきたものであろう。そのために、普及員の資格については種々の条件が要求されている。即ち普及員は所定の学歴と技術経験を備え、公務員試験に合格さえすれば誰にでもできるものではなく、教育者としてのいろいろな人間的、性格的要素が要求されている。再びアメリカの事例を持出すが、「学校の先生にはなれても、必ずしも普及員にはなりえない」というのをよく聞かされる。普及員の人間性と職の尊さを表現する名句であらう。報酬で職業を比較するのは禁物だが、1962年、某州の農業改良普及員の最高の月給は高校の農業科担任の先生のそれよりも167ドルも高く900ドルとなっていた。

世界の各国々の普及員と同様に沖繩の普及員もその職業に対しては大きな誇りと自信をもっている。

(つづく) (古 謝 瑞 幸)